

<b>第 5 回 小平市子ども・子育て審議会 会議要録</b>	
日時	令和元年 1 月 15 日（金） 午後 1 時 30 分～2 時 45 分
場所	健康福祉事務センター 2 階 第 3・4 会議室
出席者等	子ども・子育て審議会委員・・・14 人（欠席 2 人） 傍聴人・・・2 人
配布資料	・第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（素案） ・第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（素案）について
議事	（1）第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（素案）について （2）その他
<b>上記内容についての意見・質疑応答</b>	
<b>（1）第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（素案）について</b>	
委員	41 ページについて、「既存施設間の連携の強化が課題です。」や、「既存施設と連携しながら」との表記があるが、何を連携しようとしているのか、どういった点で連携が必要なのかという点が少し分かりづらいと感じる。
事務局	教育・保育については、地域特性のニーズ、量の変化を把握して、保護者の状況に応じた、利用しやすい事業に整備することが必要で、保育士不足と、教育・保育の量的な充足がある程度整ってきているところで、質の維持・向上というところにも着目しなければならない。その中で、連携の強化については、市内の保育・教育施設の状況、保護者から様々なニーズや教育・保育の質の向上に対する要望を整理して、課題として教育・保育施設と共有しながら、協力を求め、二期計画を進めていくという意味である。他の記述とのバランスも加味して、表現について検討していく。
会長	この表現は、一期計画の課題も含めて、二期計画の実際的な取組として、連携一つとっても、このように進めていきたいと述べられている。その辺をセットで読み取ることが一つ大事だとは思いますが、ただ市民がこの記述から具体的なイメージを持ちにくいとすれば、少し丁寧な記述もお願いしたい。
委員	私立保育園では、弾力化で定員を超えて受け入れている施設があり、私どもの園でも施設が広いので 10 人以上プラスで受け入れている。その状況が、人数の見込みや確保方策に反映されているのか。

事務局	認可保育園で定員以上に受け入れている人数、これを定員の弾力化と言うが、計画の中でも確保方策の数字に織り込んでいる。確かに保育の確保方策自体が充足に向かっているとの説明はしたが、施設を新しく増やすよりは、既存の施設の活用ということで弾力を引き続きお願いしていく地域もある一方で、新しい施設を作っていく地域もある。エリア等の状況を見極めながら、二期計画で取り組んでいく必要があると考えている。
委員	待機児童が多い中で協力したいと思い、定員を超えて受け入れてきたが、保育の質を考えると、必要であれば弾力化ではなく定員を変更し幼児教育を提供したいとの思いが施設側にはある。入園希望者が見学に来た際に定員より多い状況について質問を受けることもあるので、定員の示し方を整理していただききたいということが保育園側にはある。
事務局	市の東側、特に花小金井駅の南側で大規模マンションの建設が行われているようなエリアの保育ニーズは別にして、児童数の減少傾向がはっきり出れば、保育の質を考えて適正な定員に合わせていく対応も、今後は出てくると考えられる。
委員	例えば10年以上10人以上プラスで受け入れることは一時的な弾力運用ではなく定員変更すべきものだと思う。もちろん市に協力したい思いはあるが、それぞれの保育園・幼稚園のこれからについて、相談させていただきたい。
委員	評価と課題の書き方だが、あまり文章が長くなっても、ということと、市民から問い合わせがあった時には口頭で答えていただけと思うが、例えば一号認定及び二号認定で「幼稚園においては」などと全部一緒にくくられてしまうと、読んだ方には幼稚園なのか、認定こども園なのか、保育園なのか判断するのがなかなか難しいと思う。保護者から見ると一号、二号、三号認定はとても分かりづらく、そこにまた幼稚園が今年の10月から一号、二号という言葉が入りとても混乱しているので、分かりやすく「幼稚園の状況は」のように書き加えていただきたい。

事務局	検討させていただきたいと思う。ご指摘の「評価と課題」の内容については、「ニーズ調査の結果を踏まえて、今後、幼稚園での預り保育や認定こども園の拡充等の検討が必要」という趣旨であり、幼稚園側の対応が遅れているという意味合いではない。二期計画において、二号認定の充足に取り組むという趣旨で、後半にも記載があるが、併せて表現を検討させていただきたい。
委員	量の見込みと確保方策の水準を見ると、先ほどの話につながるかもしれないが、例えば令和元年度一号認定の量の見込みは2,765人で、令和2年度は1,600人となっている。ここは間違いではないということの説明を加えた方がいいのではないかなと思う。
事務局	一号認定、二号認定の量の見込みは非常に大きく動いているところである。委員からご指摘があった一号認定の量の見込みは、令和二年度が1,600人で、一期計画の平成31年から比較して1,000人以上減少している。二号認定の量の見込みは、令和二年度が3,321人で、一期計画と比較すると1,000人位の増となっている。これは誤りではなく、これらを合わせて比較すると、減少した一号の部分が二号に流入したと見てとれる。ニーズ調査結果と突き合わせると、認可保育園自体の利用希望者の割合の変動はなく、幼稚園の預り保育の利用希望が増加しているところから、基本的には幼稚園の教育を希望しながら、就労したいという、いわゆる新二号の増加につながってくると分析している。また、保護者には幼稚園の教育を子どもに受けさせたいという一定の志向があると推測しており、保育園に一気に流れる可能性は低いのではと見ている。したがって、認可保育園の二号の定員は極力増やさず、幼稚園側で一号から新二号への移行についてスムーズに行う形が望ましいと考えており、幼稚園協会と密に連携しながら、来年の4月において、どれだけの人が新二号を希望して入園を望むのかという数字を見ながら対応を検討したいと思う。現時点でお示ししている量の見込みと解離が発生すれば、数字の見直しについてあり得ると思う。
事務局	第一期計画を策定した時点は、5年前の人口推計とニーズ調査で、その時点と昨年の12月に行ったニーズ調査と人口推計には大きな違いがあるので、そこを計画の中に書き込んでいくことを検討したい。これからパブリックコメント、明日から保育園・学童クラブの申込みが始まるので、その状況も踏まえて、計画を最終的に決めていくことになる。
会長	懸念の数字に大きな変動があるところは少し丁寧に説明した方がいい。

委員	子どもがもう小学生になったので、保育園の事情等があまりよく分からない状況で、一号、二号、三号、新二号認定という話が分からない。パブリックコメントで大部分の方が分からないと思うので、一号、二号、三号認定、また制度が変わってどうなるかということをもう少し補足してほしい。
事務局	一号、二号、三号認定のそれぞれの定義や制度の説明は別に記載があるが、分かりづらいところがある。
委員	先ほど話があった幼稚園の預かりの部分とか、色々な仕組みがあるので、そういうことも記載していただけるとより親切だと思う。
事務局	スペースの関係や全体のバランス等を見ながら検討する。
会長	大事な部分は多少繰り返しても、該当ページに少し注釈を入れるなど考えてほしい。市民の方に理解してもらえないと意味がないので丁寧に記述していただきたいと思う。
委員	各種支援事業の認知状況、利用状況、利用希望についての調査結果で、利用希望が平成25年度と比較すると全部下がっている。要因の把握はされているのか。
事務局	大枠では、保育園・幼稚園以外での、子ども家庭支援センター、公民館等でのサービスについての設問で、大半のお子さんが昼間に保育園や幼稚園に通っているので、利用希望が少なくなっていると考えている。
事務局	補足だが、25年度のところから保育施設が大幅に増えているので、そちらに通っているお子さんが増えている、それとの相関関係と捉えている。
委員	認知している方の預けたいという気持ちがなくなっている、というサービスレベルの話ではないということか。
事務局	実際には保育園や幼稚園で過ごしているお子さんが多いので、利用人数が少なくなっていると捉えている。
委員	そういうことであれば、説明を入れてもいいと思う。
委員	保育園や幼稚園に通わせている保護者と、通わせていない保護者を分けて、アンケートをした方が分かりやすい。サービスを求めているのは主に働いている親ではなく、専業主婦で乳幼児を抱え、孤立化が問題になっている中、こういった方たちがサービスを使っているのか、使いやすいと思っているのか、という分析が必要と思う。アンケートを一緒にしてしまうとそれが見えなくなってしまうので、分けてアンケートを取って、必要な方の使用頻度が多ければマッチしているということになるし、頻度が少なければ何かしらの問題点があることになると思う。

事務局	今回のニーズ調査は無作為に幼稚園や保育園に預けているかという区別をせず行った。ただし、元データがあるので、幼稚園や保育園に通わせていない保護者にどう希望があるのか、可能であれば分析したい。
委員	妊婦の健康診査事業とこんにちは赤ちゃん事業のところで、量の見込みは人口推計等から出した数字で、実際の妊婦の数や赤ちゃんが生まれた数ではないと思うが、どれだけ効果があったか検証するために、実際の数を入れないとどれだけの方に届いているかが検証できないのではないかなと思う。
事務局	基本的には転出入がある。我々がまず把握できる数字が妊娠届を出した方で、その後妊婦健診を受けられる中で転出入する方がいる。特に妊婦健診の途中で転出入があると、その数字をどう捉えていくかが課題となっている。結果等については、別途捉えている。
委員	教育支援室あゆみ教室について、やはり学校に戻ることがゴールに感じる。しかしながら、最近の不登校への考え方や、子どもが抱えている色々な思いをメディア等が取り上げているので興味深く見ているが、必ずしもゴールが学校じゃなくてもいいと思っている。もちろん学校に戻りたい気持ちがある子どもに対してはそういうアプローチでいいが、学校以外にも居場所や学びの場所がある時代になってきていると思うので、その辺をもう少し表記の中で幅を持たせて記載できないか。
事務局	教育支援室あゆみ教室は、ご指摘の通り、学校に戻りたくても戻れない子ども達が、どのように戻れるかということを支援する施設である。子どもの支援と同時に、学校の教育環境を整えることも支援している。昨今学校に戻ることを目指していないお子さんがいることも承知しているが、教育委員会にある施設としては学校に戻ること支援していきたい。
委員	パブリックコメントは多くの市民の方に意見をいただきたいものと考えているか。パブリックコメントをやっても、知らない市民の方が多いのが現状と思う。例えば閲覧場所に素案を置くということか。幼稚園や保育園に通わせている保護者にお知らせしてもいいのではないかな。
事務局	市報、ホームページ等と説明したが、目立つようにポスター、ちらし等を添えて施設に配置することを考えており、周知に努めていく。
委員	例えば保育園に通わせている保護者に手紙を出すなど考えていないのか。
事務局	保護者個別には難しい。幼稚園や保育園でポスターを貼るなどして周知を図っていききたい。計画の対象の幼稚園、保育園、小学校の保護者となると、かなりの数字になるので、現実的には難しい。ポスター等を貼り周知したいと思う。

委員	9月の会議資料で、公立保育園運営のあり方に関する方針のパブリックコメント反映結果の中で気になったのが、「120 のパブリックコメントが集まり、30 で明確な反対に対しほぼ全てで反抗意見と処理され、たった一つの明確な賛成は反映済みとし、原案ありきの処理がされている」というコメントがあった。幅広く意見を集めるのはありがたいし、難しいとは承知だが、もう一歩踏み込んで集まったコメントを取り入れていく姿勢を求めたいと思う。
事務局	パブリックコメントの考え方だが、これは国も東京都もそうだと思うが、賛否を問うものではない。もちろん私達の基本姿勢としてはより多くの意見を反映させていきたいので、それに努めていくということはあるが、ただ反対が多いからそれが取り入れられるのではなく、反対の理由等も色々あると思うので、その意見に耳を傾けさせていただいて、市としてどうしてこういったことを進めていくかという事について、回答の中でもう一度説明をさせていただく。この手続きがパブリックコメントと捉えており、趣旨をご理解いただきたい。
委員	パブリックコメントについて、この素案はホームページ上でデータで見られるのか。市のホームページを時々見るが、例えばスマートフォンから見てもパソコン上から見ても、同じようにパブリックコメントを入力できるところにつながるのか。
事務局	P D Fで載せる予定でいるので、同じものがパソコンでもスマートフォンでも見られる。ご意見をいただく画面につながる。
会長	今のご意見も踏まえながら、パブリックコメントの実施を進めていただき、また、その結果をごちらに報告していただきながら、より良い事業計画、成案化に努めていくことになると思う。
(2) その他	
	特になし